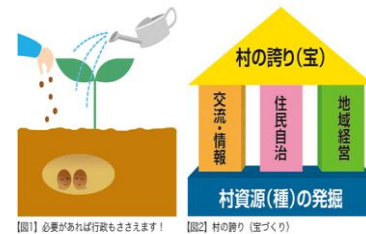


脱炭素社会を見すえた
豊富な森林資源を活用したまちづくり

SDGs未来都市 鳥取県智頭町



住民自治をすすめてきたまち



地縁型

日本「1／0村おこし運動」(1997年～)

将来も住み続けたい村にするため、自分の村の宝を見つけ、その宝をみがき、育てていく活動を行います。村の10年後を見据え、「交流・情報」「住民自治」「地域経営」の3本柱で計画を立て、地域の自立を目指します。1997年に制度し、集落に10年間300万円、地区に10年間600万円の支援をしています。

【活動内容】農家レストラン、キクラゲ作り、防災マップ作成、企業誘致、森林セラピーロード整備など

課題解決型

百人委員会(2008年～)

町をよりよくしたいという思いから、身近な課題を解決するために、住民自らが百人委員となり、事業を企画立案します。その企画を町の幹部に提案し、議会の議決を経た後、提案した住民が企画を実行します。

【部会】一般の部：商工観光部会・生活環境部会・林業部会・健康部会・特産農業部会・教育文化部会・獣害対策部会

学生の部：鳥取大学・智頭農林高等学校・智頭中学校

木の宿場プロジェクト 百人委員会提案事業 ～軽トラとチェーンソーで晩酌を～

始めた時の思い

森林所有者にもう一度宝の山に目を向けてほしい



(ターゲット)原木市場に出荷したことのない小規模林家



山側から商店街にエールを送りながら(杉小判)智頭全体の活性化につなげたい



2010年10月出発式

楽しみ・効果

汗をかけばお金になる

→ どこにでもある軽トラとチェーンソーで稼いだ杉小判で晩酌をしよう！

山の環境改善

→ 山がきれいになり間伐にも弾がつく！ → 自然災害の未然防止！

商店街も活気付く

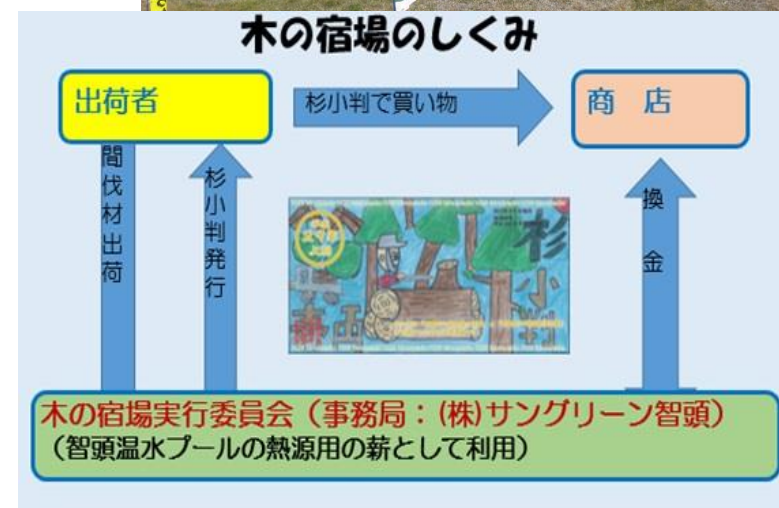
→ 杉小判を使って地元で買い物をしよう！

ルール

- ① 放置材 1 トン当たり 7,000 円相当の地域通貨 (杉小判) を出荷者に還元
- ② 出荷者のハードルを下げるため、軽トラで出荷できる寸法に造材 (2 m 以下)
- ③ 出荷材の寸検は自己申告
- ④ 出荷者・商店とも、“手上げ方式”
- ⑤ 出荷材の年間目標数量を決める

間伐材利用先

搬出された間伐材は温水プールの熱源や薪ストーブの燃料として再生可能エネルギーとして活用している。



森の恵みをいただく

百人委員会提案事業

森のようちえん(2009年～)

百人委員会初年度の提案事業。東京出身の一人のお母さんが智頭の森で子育てするすばらしさを伝えたいという思いから提案された事業です。園舎はなく、毎日、どんな天気でも(警報以外)森に通い、子どもの主体性を重視し、保育者は徹底的に見守る保育をします。心と体がしなやかな子どもに育ちます。

【活動内容】町内にある14のフィールドの中から、朝どこに行くか子どもたちが選びます。散歩、釣り、虫採り、花摘みなど子どもたちがしたいこと。週1回のクッキング。(ご飯を炊き、お味噌汁を作ります。火おこしも子どもたちがします)年1回的那岐山登山など。



森林セラピー(2011年～)

森林セラピーは森の癒やし効果に着目した一歩進んだ森林浴です。森のガイドと一緒に森を歩くことにより、五感をフルに使って癒やし効果を得ることができます。智頭の森で、森林セラピーの医学的効果について、研究が進められており、ストレスが軽減されたという結果がでています

森林セラピーは都市部での仕事、生活や人間関係などのストレスを軽減することに活用いただけます。また、森林セラピーとともに進める民泊では、来訪された方のふるさとのように感じていただけるよう人と人とのつながりを大切に進めています。これらを活用した企業による研修についても積極的に受け入れを行っています。



脈々とつづく林業のまちの新たな動き

重要文化的景観「智頭の林業景観」

智頭の林業は、江戸時代後期に始まった植樹の歴史に始まります。樹齢350年の杉林は一つ一つ人の手によって植えられたもので、その景観は智頭の人々の生活や生業、風土により形成された身近なものです。そのすばらしさが評価され、2013年2月に国の**重要文化的景観**に選定されました。

自伐型林業「智頭ノ森ノ学ビ舎」

智頭町では、林業に携わる地元住民や林業に興味をもって移住してきた若者が中心となって「智頭ノ森ノ学ビ舎」という自伐型林業を学ぶ会を立ち上げています。

事業者にも山の管理を任せ採算性のみを重視した現在の林業経営ではなく、自分たちの山は自らが管理し森林整備や林業経営をしていくこと、**環境に配慮した持続可能な林業経営**を目的としており、伐採や搬出など林業経営に必要な知識・技術を修得するため、自伐型林業研修を定期的に行っています。

町は町有林を「智頭ノ森ノ学ビ舎」会員である自伐型林業事業体に提供し、自伐型林業の研修、実践の場として活用いただいています。この研修は町外、県外からの参加者も多く、これをきっかけに智頭町に移住し、新たな林業従事者となるとともに、自伐型林業家として2名が起業しています。

山人塾

93%の森林に囲まれた智頭町。智頭の暮らしは山と切り離すことはできません。しかし、近代的な暮らしに慣れてしまい、智頭ならではの里山の暮らしを継承することが難しくなっています。薪割りや樹木の育て方、苗の作り方、病害虫への対応や緑美しい自然の中を歩いて、樹木の名前を学んだり、葉っぱやきのこを料理して食べたりといったプログラムを年間通して行い、里山の暮らしを身近に感じてもらい、関心を持ってもらうよう塾を行っています。



鳥取県八頭郡
智頭町



杉のまち智頭町。なつかしい日本の原風景をかたちづくるのは、町の面積の93%を占める森林です。その78%は人工林。一本一本、先人の手で植えられた木です。樹齢350年の人工林は、350年前に植えられ、代々その手入れをする人たちに守られて、いまに至るのです。自分たちではなく、次の世代のために行われた仕事。それによりいま見ることのできる智頭町の景色は、林業景観として日本で初めて、国の重要文化的景観に認められました。山は水と空気を買み、川や海の生き物の命をつなぎ、ひとは、それらによって生かされています。智頭町は、鳥取県最大の宿場町として、また、日本有数のブランド杉を有する林業地として栄えてきました。山は私たちの宝です。智頭町にはまた、全国に知られる森のようちえんやカフェなど、あたたかい個性も生まれています。ひとの知恵、文化が息づく里山は、私たちの誇りです。



ひとの知恵、文化が息づく里山。杉のまち智頭町

災害に備え、森とつながる

疎開保険（2012年～）

もしもの災害に備えて、疎開保険に加入すれば、智頭町へ避難できます。7泊8日、1日3食提供します。大きな災害が起こると避難所での生活が始まります。避難所でのストレスの多い生活から、智頭町へ疎開し、一旦ゆっくりしていただき、元気になってから帰っていただく保険です。

加入者特典として、年1回の智頭町の米、野菜、特産品などの送付、民泊、森林セラピー半額などがあります。



智頭野菜新鮮組

智頭野菜新鮮組

孫や家族のために安全安心で減農薬の野菜を作っています。普段は家族で食べるけど、それを少しおすそわけ。そんな思いで疎開保険加入者においしい野菜を提供しています。



智頭の民泊

46件の民家が智頭の宿として登録。智頭町での暮らしをありのまま提供し、普段の暮らしを感じてもらっています。一緒の夕食の野菜を採りに行ったり、料理をしたり。リピーターの多い事業です。

森を育むための人づくり（森林環境譲与税活用）

事業区分	内 容
林業就業者の育成	架線集材技術継承のための支援、就業環境、林業技術向上
林業技術・安全意識向上	日本伐木チャンピオンシップin鳥取の開催
森林の経営管理に関するワークショップ	担い手育成支援のための森林経営管理に関するワークショップ
「智頭林業の聞き書き」	智頭林業を後世に伝えるための冊子作成
私有林整備	小規模事業者、新規参入者を対象に間伐、作業道開設支援
山林の情報提供	森林所有者でなくても林業に参入、活動できるようにするため
学習会	「智頭の山と暮らしの未来ビジョン」の周知や、森林・山村生活について学びの場をつくる取り組み
木育	暮らし、子育てに智頭杉を取り入れる（木のおもちゃ設置・木育キャラバン）

間伐材等の活用による脱炭素に向けた取り組み

智頭温水プールに薪ボイラーを導入し、木の宿場プロジェクトにより搬出された間伐材を補助熱源として活用しています。2018年に木の宿場に搬出された間伐材は292.96tが温水プールの熱源として利用されました。

また、薪ストーブ導入に対する補助を行い、町内での間伐材の熱利用を進めています。

さらに、地区の拠点となっている旧小学校において、防災の観点から薪ボイラーや太陽光発電の導入を検討しており、再生可能エネルギーの活用をさらに進めていきたいと考えています。

